

4日目 9月23日

会 場： 松江市営野球場

第1試合		～3回戦～（延長11回）																	
T E A M		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E
三刀屋		1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1					5	13	1
開 星		0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0					4	10	1
(投手―捕手)																			
・（三）		三原→高野→三原→高野→三原→槇野→三原 ― 國分																	
・（開）		曾田→百合澤→山本→川谷 ― 吉川																	
(長 打)		(二塁打)							(三塁打)							(本塁打)			
・（三）		吉田、中島、山端														高野			
・（開）		江角							松浦										
(審判)〔球審〕		本田			〔一塁〕森島				〔二塁〕林				〔三塁〕藤原大						
(チーム成績)																			
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守備	失	暴	ボ	逸	打妨	
(三)	55	13	4	3	0	1	7	8	1	1		0		1	4	0	0	0	
(開)	53	10	3	1	1	0	13	11	5	1		1		1	5	0	0	0	

「三刀屋、延長11回の激闘制す」

昨年から主力として出場する選手が残る両チームによる3回戦屈指の好カードとして注目され、好ゲームが予想された。戦前の予想どおり、1点差の全くわからない展開のゲームとなった。

1～5回は両者全ての回で走者を出すものの、得点はあまり入らず投手戦の様相を呈した。三刀屋は1回表に注目の1番高野がレフトへの安打で出塁すると、内野ゴロの間に2塁へ進塁し暴投2つとラッキーな形で先制点を奪う。対する開星は3回裏、先頭の吉川が四球で出塁すると、犠打とタッチアップで2死3塁とし、こちらも暴投で同点に追いつく。先に動いたのは三刀屋で、4回から2番手の高野に継投する。その三刀屋は5回表に4番國分の安打と暴投で1死2塁とし、5番吉田のレフト線を破る適時2塁打で1点を追加し勝ち越しに成功する。

6回以降は両チーム継投に入り、小刻みな点の取り合いによる接戦となっていく。6回表、開星はこの回から2番手百合澤に継投する。百合澤の立ち上がりには三刀屋の1番高野が内に甘く入った直球を左中間スタンドに運び、本塁打で追加点を得る。しかし、開星も負けじと直後の6回裏、2死から安打で2死1塁として2番江角の右中間を破る適時2塁打で1点を返す。しかし、三刀屋は8回表に9番古川がセフティーバントを仕掛け安打と1塁転送が逸れる間に2塁へ進塁、申告敬遠と四球で1死満塁とすると、3番槇野のレフトへの犠飛で1点を追加した。開星は7回以降も小刻みな継投に苦戦しており、これで勝負あったかと思われた。しかし、9回裏、先頭が死球で出塁すると三刀屋は初めて背番号1の槇野をマウンドに送る。1死1塁となり、5番松浦の飛球を中堅手が目測を誤り頭上を越され、適時3塁打となり1点差にすると、1死3塁で6番山本が内野ゴロを打つ間に3塁走者が生還し、土壇場で同点に追いつく。さらに、安打と暴投で2死2塁のサヨナラのピンチで、三刀屋は三原を4度目のマウンドに戻す。四球こそ許したものの、二ゴロに抑え後続を絶つ。

すると、三刀屋は延長11回表に6番中島の力の無い飛球を中堅手がダイビングするも後逸し2塁打で出塁すると、9回から途中交代で入っていた山端が甘く入った直球を捉え、右中間への適時2塁打を放ち決勝点となった。両チームとも力の限りを尽くした総力戦だった。

[illegible][illegible]

[投手]	回	打	安	四	失	自	三
三原	3	15	3	4	1	1	5
高野	2 2/3	14	4	1	1	1	2
三原	0 2/3	3	0	1	0	0	2
高野	1	4	1	0	0	0	0
三原	0 2/3	3	0	1	1	1	1
槇野	0 2/3	4	2	0	1	1	0
三原	2 1/3	10	0	4	0	0	3

[illegible]